

第3章

目指すべき環境像と基本方針

美しい光市の海岸線



1	目指すべき環境像	26
2	環境像実現に向けた基本姿勢	27
3	基本方針	28

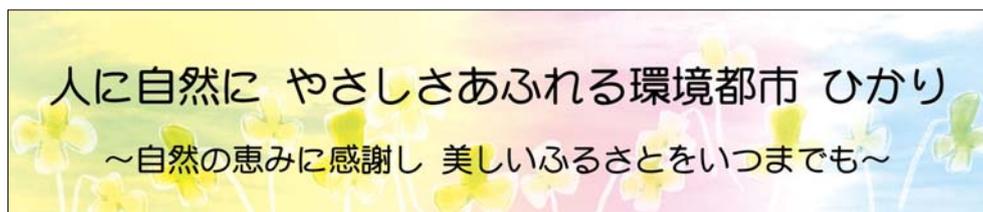
1 目指すべき環境像

光市総合計画後期基本計画においては、目指すまちの姿を『やさしさあふれる「わ」のまち ひかり』と定め、その実現を図るため、「自然敬愛都市宣言」などの3つの都市宣言の理念を基本に、「自助・互助・共助・公助の調和を図る」や、「3つの「わ」（対話・調和・人の輪）から、まちにやさしさを導く」など3つの視点をもって、今後5年間のまちづくりを進めることとしています。

しかしながら、私たちを取り巻く環境の現状は、東日本大震災後のエネルギー政策の見直しや、地球温暖化への対応など、これまでの環境問題に加えて、私たちのライフスタイルにも多くの課題を与えました。

こうした様々な課題に対し、今一度、私たちの身近な環境に目をやり、自然への畏敬の念やふるさとのかけがえのない環境を維持・向上させ、次の世代に着実に引き継いでいくための取組みが求められます。

本計画においては、こうした考え方や自然敬愛の精神と光市環境基本条例の基本理念をもとに、目指すべき環境像を次のように定めます。



どこまでも続く青い海、緑豊かな山々、清らかに流れる川、四季折々の花、新鮮な空気や水、豊かな実りをもたらす大地、そして燦々と降り注ぐ太陽の光、これら多くの自然の恵みは、私たちの生活にやすらぎとおい、力を与えてくれています。私たちはこうした自然の恵みに感謝し、「未来からの借り物」であるこの美しいふるさとを美しいまま未来に伝えていくとともに、人にも自然にもやさしさに満ちあふれた環境都市を目指します。

また、「新しい公共」が求められる今日、その担い手として、市民・事業者・市それぞれがあらゆる場面で環境について学び考え、環境を大切に作る心をもって行動することで、各主体が一丸となった環境像の実現を目指していきます。

※未来からの借り物

この地球は、先祖から受け継いだものではなく、未来の子どもたちからの借り物である。地球を傷つけると、未来の子どもたちを傷つけるのと同じと考え、大切に使い、きれいな形で返さなければならぬ。

(ネイティブアメリカンの教え)

2 環境像実現に向けた基本姿勢

(1) 人と自然の「対話」

いつも身近に自然を感じ、自然の声に耳を傾けながら、様々な恩恵をもたらす自然にやさしさと感謝の気持ちを持ち続け、人と自然の共生を目指します。

(2) 地域環境の「調和」

地域の環境が地球全体の環境に深く関わっていることを意識し、地域が有する環境を大切にするとともに、良好な環境を未来へ引き継ぐため、多様な環境との調和を目指します。

(3) 環境でつなぐ「人の輪」

環境への負荷の少ない持続可能な社会を目指し、推進主体それぞれの責務に応じた役割分担のもと、多くの人々が環境活動で繋がる人の輪を目指します。



3 基本方針

目指すべき環境像を具現化していくために、光市環境基本条例に定める基本方針に基づきつつ、近年の環境課題、国の第四次環境基本計画及び光市総合計画後期基本計画の政策を踏まえ、3つの環境分野別目標を設定し、各種施策の展開を図ります。

(1) 多様な自然と歴史が息づき、豊かな原風景を次世代へつなぐまち

【自然共生社会の実現】

緑豊かな山々、青く澄み切った海や川に囲まれ、多様な生き物とともに暮らし、先人から受け継いだ歴史や文化を守り伝える、人と自然が共生できる安全で快適なやさしさのあるまちを目指します。

【自然共生社会の実現】



将来の暮らしやまちのイメージ

- 様々な場所で、人々が自然の豊かさを感じ、自然と親しんでいます。
- 公園は緑であふれ、私たちの憩いの場として活用され、癒されています。
- 生態系に影響を及ぼす外来生物はいなくなり、地域固有の生き物が生息・生育する森や山、川、海になっています。
- 自然を活かしたグリーンツーリズムやブルーツーリズムが行われています。
- 公害に対する苦情がなく、住みやすいまちになっています。
- 水と空気がおしく、私たちの健康が保たれています。
- 自然と都市の景観が調和したまちになっています。
- 歴史や文化を楽しむ人が増えています。

(2) 低炭素で地球へのやさしさを大切にするまち

【低炭素社会の実現】

私たちの生活スタイルや事業活動等が、地球温暖化などの地球環境にも影響を与えていることを考慮し、地球環境について一人ひとりが自ら考え、実践し、これまでより温室効果ガス排出量を削減しつつ、生活の豊かさを実感できる、地球にやさしい低炭素のまちを目指します。

【低炭素社会の実現】



将来の暮らしやまちのイメージ

- まちのあらゆるところに、太陽光発電などの利用が普及しています。
- 公共交通や自転車を利用する人が増え、自動車に依存しない交通環境になっています。
- 自動車の動力に、電気や燃料電池の利用が普及し、空気も澄んでさわやかなまちになっています。
- 省エネルギー設備や創エネルギー設備を備え、エネルギー消費の最適化が図られたスマートハウスが普及しています。
- 節電などの省エネルギー活動に取り組む人が増えています。
- 緑のカーテンや街路樹など、住まいの周辺の緑が豊かになり、身近な二酸化炭素吸収源が増加しています。
- 森林の適正管理などにより、二酸化炭素吸収量を増やし、地球温暖化防止に貢献しています。

(3) 循環を基調に限りある資源を大切にすまち

【循環型社会の実現】

市全体に「もったいない」の輪が広がり、限りある資源の消費を抑制し、これまで廃棄されていたものを新たな資源として有効に活用する資源循環システムの実現や、それを可能にする生活スタイルへの転換など、持続可能で地球にやさしいごみゼロのまちを目指します。

【循環型社会の実現】



将来の暮らしやまちのイメージ

- 「もったいない」を合言葉に、すべてのものを大切にする気持ちが広がっています。
- フリーマーケットが活発に行われています。
- 商店では量り売りがされ、過剰包装がなくなっています。
- 地域や団体において、みんなで協力しながら資源回収を行っています。
- ごみの少ない暮らしになっており、街中にもポイ捨てをする人がいません。
- 山間部や海岸部などに不法投棄されたごみや漂着するごみが見当たりません。
- 家庭で生ごみを堆肥化する人が増え、生ごみの排出量が減少しています。
- 事業所から排出される廃棄物や道路工事等で発生するがれき類が再資源化され、処分量が減っています。

計画のイメージ図





光市自然敬愛都市宣言
～美しく すばらしい自然を次世代へ～

- 1 自然の偉大さ、やさしさ、きびしさを知り、自然に学びふれあい、豊かな心を育みます
- 2 美しい緑、清らかな水、さわやかな空気のもと、ふるさとのかげがえのない自然を創意と工夫をもって守ります
- 3 自然を敬愛する心を養い、はかりしれない自然の恵みに感謝します